

令和2年度 第1回小牧市児童館運営委員会会議録

日時	令和2年7月17日金曜日 14時～15時30分	
場所	まなび創造館 多目的室1	
参加者	運営委員	永井勝彦、中野江美子、穂積友子、来治英治、長谷川留美子、中川裕子、沖本喜久江、川田智彦、山下 美和
	事務局	鍛冶屋部長、櫻井次長、近藤指導保育士、丹羽係長、森島センター長(児童センター・子育て世代包括支援センター)、野地館長(味岡児童館)、寺田館長(篠岡児童館)、波多野館長(小牧児童館)、安藤館長(小牧南児童館)、山田館長(北里児童館)、水野館長(西部児童館)、坪井館長(大城児童館)、小川
欠席者	運営委員	小島恵子
傍聴人	1名	
司会	<p>本日はお忙しいところ、会議にご出席いただきましてありがとうございます。ただいまから、令和2年度第1回小牧市児童館運営委員会を開催します。私は、司会を務めさせていただきます多世代交流プラザ準備室長の川尻と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>今回皆様に委員として委嘱いたします任期は、令和2年7月8日から令和4年7月7日となっております。委嘱状につきましては、本来ならばお一人ずつにお渡しするのが本意ですが、時間の関係上、テーブルの上に置かせていただきましたので、ご了承ください。</p> <p>続きまして、会議の定足数に関して報告します。小牧市児童館の管理に関する規則第14条第2項で過半数5名の出席が必要とされていますが、本日は9名の委員が出席しており、会議は成立しています。また、この会議は、公開となっておりますが、ただいまのところ傍聴者は1名となっております。では最初に、こども未来部長の鍛冶屋より、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました部長の鍛冶屋でございます。本日はご多忙にもかかわらず、第1回小牧市児童館運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には本市の教育・福祉行政の推進に日頃より格別のご支援・ご協力をいただき、改めて厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、新型コロナウイルスの影響で、児童館も昨年度2月末から休館が続いておりましたが、この6月に開館をし、最近では少しずつ来館者も増えてきました。まだまだ余談を許さない状況ではありますが、来館者の笑顔が見られ、職員もほっとしております。</p> <p>また、こども未来館について、先日無事工事が終わり、引き渡し済みです。お時間のある方は本日委員会終了後、見学をしていただけたら、と思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p>	
こども未来部長 あいさつ		

子育て支援の拠点として、各児童館、こども未来館ともに今後益々発展していくために、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

司会

それでは、議事に入ります前に、本日初めてご出席される方もお見えですので、自己紹介をお願いしたいと思います。永井委員長から順番にお願いします。

自己紹介

(自己紹介)

司会

ありがとうございました。それでは、議事に入ります。ここからの進行につきましては、規則第13条第2項で「委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。」ことが規定されていますので、永井委員長よりお願いします。なお、質問につきましては議事後にいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

委員長

それでは、議事に入ります。令和元年度児童館・子育て支援室実績報告について、事務局の説明をお願いします。

センター長

(資料1-1により説明)

それではまず、令和元年度児童館利用実績報告について説明させていただきます。上段が令和元年度、下段が30年度の数値です。総利用者数が30年度に比べ減っているのは、新型コロナウイルスの影響により、令和2年2月29日から令和2年5月31日まで閉館したことが理由にあげられます。

現在の児童館・児童センターの状況ですが、学校の開校に準じて6月1日から2時間の利用時間で3部制に分け、また、各児童館施設の面積から利用定員を設けて一部運用を開始しました。次の部間に1時間設け、施設内を一斉消毒して、来館者を受け入れるようにしています。今後も、感染防止のため、安心安全に過ごせるように心掛けながら、利用者に居心地よく感じていただけるように、工夫していきたいと思っています。

(資料1-2により説明)

続きまして、令和元年度子育て支援室利用実績報告について説明させていただきます。各児童館には地域子育て支援拠点である子育て支援室があります。こちらにも新型コロナウイルスの影響により、児童館と同様に窓口業務以外は同時期閉館しておりましたので、30年度に比べると人数は減少しております。また、全体として来所が減っている要因として、令和元年度の10月から幼児教育の無償化がスタートしたことで、満3歳の就園を望む保護者

が増えたことや、小牧市は小規模保育園も多いことから未満児で預け、就労する保護者が増えていることがあげられます。

子育て支援室の現状ですが、児童館と同様に3部制で各支援室の面積に合わせた定員を設け、こちらは予約制で一部運用をしております。子育て講座なども7月からソーシャルディスタンスが確保できる定員で開催しています。

新型コロナウイルスや自然災害など、今や予想しないことが起こるような時代になりました。こういった時代を生き抜いていかななくてはいけない子育て世帯にとって、今まで以上に子育て支援の役割は大きくなっています。このことを踏まえ、子育て世代包括支援センターでは、相談業務の選択肢を増やしていく必要があると考え、8月3日から、オンラインでの育児相談を実施します。また、オンラインの子育て講座も、9月以降に実施する予定です。

(資料2-1により説明)

続きまして、令和元年度児童館行事活動報告について説明をさせていただきます。児童センターは「ちびっこ七夕」、「ちびっこ運動会」など、「ちびっこ」行事は、子育て世代包括支援センターの子育て支援室からの繋がりもあり、乳幼児親子の行事が多く、センターを代表するイベントになっています。8月の「お化け屋敷」や、2月の「スプリングフェスタ！」などは、こどもスタッフが活躍してくれました。児童センターがラピオに移転後、こどもスタッフがどこでどのように活動していくか、悩む部分もありました。近隣の小学校に募集の依頼をさせていただいたことで、たくさんの児童がこどもスタッフとして登録してくれました。こどもスタッフが自ら発起することで、面白い企画が成り立つようになってきています。例えば、昨年度2月の児童館運営委員会でもお伝えさせていただきましたが、カードに絵を描き、絵でしりとりをしていく、「絵しりとり」では、児童センターに来た子が知らない子同士でも、「絵しりとり」で繋がることができました。

平成30年度に中部公民館からラピオの4階に移転した児童センターですが、移転前は子育て広場として乳幼児親子が集う場として利用されていたこと、また、商業施設内にあることで児童センターとして機能するためには課題がたくさんありました。職員と環境など含め、一つひとつ話し合いながら改善していきました。スマホやゲーム機では経験できない遊びとして、ボードゲームを提供することで、友達や職員と関わって遊ぶ楽しさを感じ、小学生の来館者が増えました。また、中高生がくつろげる場所や、学習スペースが必要と考え、中高生優先エリアを作ることで、中高生の来館者も増えました。

移転後一年半が経ち、ようやく児童センターに目的を持って、そして、居心地の良さを感じ、継続して来てくれる来館者が増えたことは、私たち職員

味岡児童館長

にとって大きな喜びです。しかし、まだまだ課題はたくさんあります。通常の来館者は、児童センターを目指してきてくれるようになっていますが、「フェスタ！センターの輪」や「スプリングフェスタ！」など、大きなイベントに対しては、目的を持って来館される方がまだまだ少ないです。今後、新型コロナウイルスの感染が収束すれば、大きなイベントを目的として来所していただけるように、周知活動をしたり、毎年開催することで、児童センターの催しとして定着するようにしたいです。

今後の児童センターですが、こまきこども未来館となっても、今の児童センターの良さである個々へ細やかな配慮や地域の子どもたちへの関わり、家庭に問題がある子への支援などを大切にしていきたいと思っています。

(資料2-2により説明)

味岡児童館は5つの理念、①地域ぐるみで育ちあう児童館、②多世代で育ち合う子育て支援、③中高生の集い使える児童館、④多文化共生できる児童館、⑤社会教育を担う児童館を基に運営を行っています。

4月親子でかまどを使い、薪に火をつけるところからご飯を炊く「かまど名人」、7月天体望遠鏡を使って夏の夜空を知る「七夕観望会」、9月尾張地方に伝わる和製ハロウィン「お月見どろぼう」を初めて開催し、幼児親子から中学生までが楽しみ、12月「クリスマス会」では来館された皆さんを対象にハンドベル演奏をプレゼントなど、季節を味わい、地域や伝統を知ることができる体験を通して「地域の輪、友達の輪を広げよう」を目標に活動を行ってきました。

令和元年度1月には開館7周年を迎え、1年目より児童館サポーターとともに企画から始めた8月「サマーフェスティバル」、1月開館記念「ハッピーバースデー」の餅つきを実施しました。10月「ザウルスマんじゅう」ではサポーターを講師に迎えての開催で、サポーターとの協働は味岡児童館らしさにつながっています。2月「ぱるもあお楽しみ会」では小学生が「イキイキと活躍ができる児童館にするためのアイデア」を披露しました。大人のサポーターだけでなく子どもたちにも支えられて、ともに育っていく児童館であると実感しました。また、1階遊びのスペースがワンフロアでつながっており、自然と子育て世代親子と小中高生の交流が生まれ、それぞれが育ちを感じる和やかな雰囲気に包まれた場面がよく見られました。

中高生は学習の場として利用が多く、令和元年度はこの世代の利用が増えました。ギターの貸し出しやボードゲーム類を用意するなど集える児童館でもあるよう心がけていました。

小学生について、他校生との交流の機会を意識しながら、夏休みの合唱企画「ぱるもあゆかいな仲間たち」や隔月に行っている「インターナショナルあそび」を行いました。

子育て支援室はママ達の情報交換、交流の場となっています。生活の中で

悩んだり、不安を感じたりするママ達がほっとできる居心地のよい環境づくりに努め、子育て支援員は毎月研修を重ね、ママ達を支えています。幼児親子を対象とした英語やリトミックなど講座は大変人気で、その場で楽しむばかりでなく家庭での支援につなぐ「絵本でイングリッシュ」を開催しました。9月からは助産師の講師を迎え「あいあいサロン」が始まりました。育児が始まると、なかなか自分のことは後回しになりがちですが、メンタルやボディメンテナンスも含めたトータル的なアドバイスが受けられ好評です。土日を中心に父子での利用も増えており、講座にも父子で参加するなど利用の仕方にも広がりがありました。

1歳の誕生を祝うアニバーサリー事業が始まり、初めて来所される機会となることが度々あり、親子と今後もつながれるよう迎え入れています。

地域は外国にルーツを持つ人が多い地域です。「ワールドミュージック」、「インターナショナル遊び」を開催し、各国の音楽や遊びを通して他を知る機会となっています。毎週火曜日には外国にルーツがある子どもの母語教育としてポルトガル語教室を開催し、サポートをすることも継続して行ってきました。

今後もどの世代とも「つながる」ことを大切に、育ちの支えとなるように努めていきたいと思います。

篠岡児童館長

(資料2-3により説明)

令和元年度篠岡児童館も5つの理念に基づき、「児童館であそぼう・楽しもう。地域と共に育ち合う」ということを重点に置いて運営しました。

令和元年度は子育て支援の新たな試みとして、助産師によるサロンを支援室で定期的で開催しました。アットホームな雰囲気の中でお子さんのことやお母さん自身のことを相談できたり、一緒に考えたりでき、お母さん自身の育児力を高めていく良いきっかけとなりました。今年度も継続して開催していきたいと思っています。

またその他に児童館では様々な活動を行ってきましたが、どれをとっても地域の方々との連携なしでは行えないことばかりでした。携わってくださる方が皆、「子どもたちや子育てされている保護者のために」とその思いで溢れていて、子どもたちの意欲や主体的な姿・ママたちのありのままの姿を受け止め認めてくださっていました。

毎年5月に開催している児童館まつりでは児童館の隣にあります篠岡中学校の生徒さんがジュニア奉仕団として児童館職員と一緒にまつりを盛り上げてくださいます。その中のひとコマですが、折紙を折って飾るコーナーで遊んでいた4歳の女の子がジュニア奉仕団のお姉さんにとっても優しく接してもらえたそうで、お家に帰ってからその4歳の子がお母さんに「今日のお姉さんがとても優しく嬉しかった。私も大きくなったら今日のお姉さんのようになりたい。そして奉仕団に入りたい。」と憧れの眼差しで話したそうです。

小牧児童館長

後日中学生本人や先生にもお話をさせていただきましたが、誰かに憧れ目指そうとしたり、憧れの対象となる経験ができたことで自分に自信が持てる。そしてそこに親御さんもみえて、子どもの成長を感じて喜べる。世代を超えて関わりが持てる児童館ならではの出来事でした。

児童館ではその他にも特別な活動だけでなく、日常があります。日々の中には大切な瞬間がたくさんあり、児童館がただの遊び場ではなく「子どもが育つ場」「子育てされている保護者の方の心許せる場」として私たち職員が一人ひとりと丁寧に関わって愛のある児童館運営を目指していきたいです。

(資料2-4により説明)

地域に根付く児童館として「楽しく過ごしていただける居場所づくり・あそびを通しての仲間づくり」を目標に運営を行っています。

毎年夏になると、幼児親子、小学生の気分転換とし、子どもたちが聞いたことのある体操を取り入れています。体力増進にも繋げられるよう、去年は忍者になって動く「忍者体操」を行い、同時に職員が作った難問の書かれた巻物を解くという「忍者修業」をしました。遊びながら、身体を鍛え、忍耐力を身につける夏のあそびとなりました。修行に励む幼児に声援を送る母親の姿も見られました。小学生も楽しんでくれました。

季節の行事も大切にしており、夏まつり、お化け屋敷、ハロウィン、クリスマス会などを開催しました。新年お楽しみ会にはこまき山を招いてクイズや相撲を取りました。近くで見るこまき山の姿にビックリしながらも近寄っていく幼児もいれば、「これからも頑張って!」と励ましの手紙を渡す子どももいました。

また、例年では3月にはお雛菓子として「おこしものづくり」を行っていましたが、コロナ感染防止の為、残念ながら中止になってしまいました。

子育て支援室では、育児の疲れを少しでも取り除き、気分をスッキリさせる「リフレッシュ講座」、近隣の小児歯科医を招いた歯磨き指導などを行いました。歯磨き指導での「悩み相談Q&A」では、どんな小さな質問にも分かりやすく教えて頂けるので、母親も安心して相談をしていました。また、コープあいちの方に来て頂き、栄養士さんにお話を聞く会を設け、離乳食の試食もさせて頂きました。

前年度に比べ、支援室利用の親子の来館は少なくなりましたが、その分落ち着いてくつろげてよいとの声もありました。常連の親子さんは、幼稚園、保育園に上がり、児童館も新しいメンバーになりつつありますが、今年度も利用についての約束事を周知しながら、母親と寄り添い、利用者親子が過ごしやすい支援室運営を目指していきます。

小牧児童館は平成27年より「生まれ!双子ちゃん」を開催しており、毎年数組の親子が卒業していかれます。新しく参加される親子と先輩ママ、そして双子を育てている職員との交流も新たに始まり、月ごとにテーマを決め、

活動を行っています。

昨年は児童館職員と歌が好きなお母さんや楽器を演奏できるお母さんで「みなくる音楽隊」を結成し、クリスマス会で発表しました。今年度は開催の見通しが立たず、各自自宅での自主練を行っています。

秋には初めての試みとして、児童館で一泊し、家族で協力しながら段ボール住居を作る、「親子防災体験」をしました。今年度も是非やってほしいと要望もありました。

前期はクラブ活動や大きな行事がすべて中止になってしまいましたが、密にならないよう配慮しながら、親子講座や工作・遊びを工夫し、また消毒、換気を行い、安心して来館者に来て頂けるよう環境を整えていきたいと考えています。

小牧南児童館長

(資料2-5により説明)

小牧南児童館は、小牧市南部コミュニティセンターとの併設館で、ふらっとみなみの愛称で親しまれており、「すべては子どもたちの為に」を合言葉に運営を行っています。

小牧市の南部地区は、新興住宅地という事で、子ども人口が増加している地区でもあります。その為か、利用者は増加傾向にあり、昨年度は新型コロナウイルスの拡大に伴う閉館になる2月末の時点で昨年度の利用者を超える程、多くの方が来館しておりました。内訳としましては、子育て支援室の利用が大幅に増えており、資料1-2にありますように、支援室の利用が2000人、約9%、1割弱増えており、これが大きな要因となって、全体の利用者増に繋がっています。

この南部地区は、地域のつながりが非常に強い地区であります。小牧南児童館は、ふらっとみなみ運営協議会をはじめ、併設のコミュニティセンターとの共催で七夕や夏祭り、クリスマス、節分など、多数のイベントを開催しております。地域の様々な世代の方々のご協力もあり、どのイベントも大変盛況で、多世代交流を深めながら、児童館の運営を行っているところであります。

「すべては子どもたちの為に」という事を理念にしているとお話をさせていただきましたが、子どもたちの成長には近くにいる大人の影響も大きいかと思えます。

当児童館の一つの考え方として、子育て中の保護者が「子どもと離れて楽ができる」というような子育て支援はしたくないと思っております。「子育ては大変だけど、楽しい！」と思えるような支援を目指したい。子どもと大人が、一緒に楽しめる内容を行うことで、大人は「子どもと一緒に楽しい、一緒だからこそ楽しい」と思え、また子どもも「大人と一緒にだと、こんなことが出来るんだ！」と相互啓発になるような企画を心がけています。これにより、子どもを取り巻く環境、地域が少しでも良くなることを発信し続けるこ

とも児童館としての役割だと考えます。

そういった意味でも、昨年7月の七夕ではマジックショー、12月のクリスマスではクラウンのショーなど、大人が見ても楽しいと思えるものを実施したり、自転車の補助輪外し教室など、親子で参加しやすいもの等を増やしました。そうはいつでも、やはりお母さん達も人間です。少しは息抜きもしたいと思います。外部企業、団体と連携し、離乳食などの食育や、ビューティートレーニング、資料にはありませんが、カラーセラピーといった、大人も楽しめる内容の講座などを児童館の母親クラブと共催で実施し、お母さんたちが子育ての中で、ちょっと息抜きをし、その分、新たな気持ちで子どもと向き合い、それが子どもたちに還元できるような、保護者に向けた企画も大変ご好評を得ております。

また、児童館はその名の通り、子どもの館でもあります。昨年度は、こどもプランナーと言って、小学3年生以上の有志により、夏祭りのお化け屋敷、ハロウィンのイベント等、児童館活動の企画、運営のお手伝いをしてもらっているのですが、子どもたちの発案でプラネタリウムやクッキングなど、子どもたちから出た意見をそのまま実施してみるなど、「子どもの主体性」を意識した取り組みも始めております。

今現在、新型コロナウイルスの影響で、いろいろなことに制限があり、子どもたち、また保護者の皆様の思うような活動が出来ておりません。今年は各種イベントも中止となっています。そんな中でも児童館として出来る事があると信じて、少ない人数で3密を避けた企画、インターネットを使った情報発信など、子どもはもちろん、利用者のニーズに出来るだけ応え、子ども・子育てに関わる全ての方々の受け皿でありたいと思っております。

今年の状況は厳しいですが、昨年以上の新しい企画・活動を実践していきますので、ご意見・ご協力を頂ければと思います。

北里児童館長

(資料2-6により説明)

令和元年度は「初心にかえり、地域の子育てや子どもたちが楽しめる行事を提供する」を重点目標として、チャレンジと基本を忠実に心掛けました。

大きな行事としましては、昨年に引き続き、「夏だ、あそぼう、きたっこまつり!」、「子どもだって忘年会」を行いました。毎年恒例の行事として、大勢の方に参加いただいておりますが、父母クラブが協賛することで、保護者に児童館行事をお手伝いしていただき、多くの方の支えで行事を行う事ができました。

夏休みには新たな行事として段ボール迷路を行いました。真っ暗な段ボール迷路は好評で何度も参加する子どもが多かったです。北里市民センターの講堂をお借りし、児童館内ではできない迫力のある大掛かりな迷路ができました。また、迷路を作成するにあたり、事前にコースを子どもたちに体験してもらい、子どもたちの意見を反映させることもできました。



2月には映画会で「ペット2」の上映を行いました。コロナウイルスの対策についてはどのようにするか職員で話し合いを重ねました。上映にあたり、5つの映画の候補をあげ、子どもたちに投票方式で映画を決定してもらい、自分たちの決めた映画を楽しみに見にくる姿がみられました。職員が作り上げたものに子どもを参加させるのではなく、子どもの意見を反映させることで創意工夫が生まれ、やる気につながることを考えて活動を行っていきたいと思っています。3月にはコロナウイルス対策のため休館になり、要望の多かった人形劇が中止となり、残念でした。

昨年の運営委員会で報告させていただいた、車いすの幼児が児童館の利用を希望された件につきまして、緊急時の非常口を開け北里市民センターのエレベーターを利用して2階に上がり、来館して頂きました。乳幼児の絵本、玩具を希望されたので特別に貸し出しをしてクラブ終了まで待っていただきました。館内利用時の車いすスペースの確保等、課題は残りましたが、今後車いすでの来館希望があることを想定し、課題としていきたいと思います。

6月に入り、児童館の利用制限はありますが、開館しております。コロナウイルス対策をしっかりと行い、利用者さんの安心安全を基本に活動していきたいと思います。いろいろな工夫をし、今できる事を考え、子どもたちの笑顔や支援室利用の親子の笑顔をたくさんみられるように、努力していきたいです。今年度の北里児童館の目標としてみんなが主役としましたが、来館してくれるすべての人、関わる地域の人、職員、すべての人が楽しんで過ごせる場所にしていきたいです。また、中高生の居場所作りというテーマにもついても取り組んでいきたいと思っております。

西部児童館長

(資料2-7により説明)

「地域との連携」として、西部コミュニティー運営協議会の方々、地域の方々にご協力を頂きながら、多くの方に喜んで頂ける取り組みを提供させていただきました。

6月の「おすもうさんとあそぼ」、8月の「夏祭り、お化け屋敷」、9月の三世代交流会での遊戯室いっぱいの「大型ダンボール迷路」、これらは毎年開催されるのを待っていただいているほど好評なイベントです。親子で楽しんでいただく姿がたくさん見られました。迷路で使用したダンボールは、児童館の為に運営協議会の方から地域の会社に声を掛けて頂き頂戴したものです。その段ボールは使用后、職員の手作りで子どもたちが使用するおもちゃ箱や収納棚にも変身しました。

11月の文化祭では「不思議の国のアリス」のイメージで子どもたちが楽しむゲームコーナーを実施し、ゲームを楽しみながらお話の世界観を味わって頂きました。

2月は、節分で運営協議会の会長、副会長に豆まきをお願いし、子どもプランナーや児童館の職員が鬼になって節分盛り上げました。

児童館独自としては、夏休みの取り組みで工作、遊びを増やし小中高生の対象のイベントの充実を意識して行った結果、その後小中高生の増加に繋がりました。

子育て支援室は、昨年のスペース拡張により好評を得ましたが、年齢制限のある子育て支援室では幼児と乳児兄弟と一緒に利用できない等、利用者から広いから使用しにくいとの意見も出たので更に再検討が必要になりました。利用者の意見をお聞きしながら居心地のいい支援室にしていきたいと思えます。

クラブ活動は、「プチパーティシエクラブ」「クッキングクラブ」は好評でしたが、コロナウイルス感染拡大のため令和2年度はクラブ開催を控えることになり、中止を知った保護者や子どもたちからは「やりたかった」「抽選でやっと参加できるようになったのに」と残念との声を頂きました。

アンケートによる要望から小中学生が楽しめるボードゲームをそろえていきます。職員と一緒に遊ぶ時間を増やし、遊びを通して子どもたちを関わっていききたいと思えます。

令和2年度は夏休みにボードゲームのマンカラ大会を予定しています。職員が負けて悔しがる、職員に勝って嬉しいボードゲームを楽しみたいと思えます。

もう一つの要望は、ままごとコーナーの充実でした。幼児が遊べるものとして、職員の手作りでままごとの制作を進めています。ままごと遊びと共に、子育て支援室では年齢に応じた広場の充実を目指します。

今後の課題としては、小中高生が更に来館しやすい居場所として工夫をしていきます。

広場やクラブを通して、厚生員と支援員と保護者が一緒に学びあう時間を作っていきたいと思えます。西部児童館は「笑顔になれる場所」を目指し、職員の笑顔で来館者が笑顔になって帰っていただけるよう頑張っています。

大城児童館長

(資料2-8により説明)

令和元年度の重点目標は「楽しさのシェアリング」を掲げてやってきました。指定管理者として大城児童館を運営して11年目となり、5つの理念を基に運営しています。「地域ぐるみの運営」では地域サポーターの方には、大きな行事はほとんど関わっていただいております、地域サポーターの方にまとめてもらう行事もあります。地域との関係を強くしながら、学校との関係も大事にしています。元学校地域コーディネーターの職員もいますので、小中学校との連携をしっかりと取っています。職業人体験でも2校の学校を受け入れました。また、ジュニア奉仕団の子が土日に来てくれるのですが、行事のための準備などで非常に活躍してくれています。

地域運営協議会というものを児童館独自で設けておりまして、年3回の会

議の中で児童館の定点チェックをしてもらい、意見をもらっています。

大きくみると桃花台地区は子育て世帯がかなり減ってきておりまして、利用人数も小中学生が減少しています。高校生が横ばいというところですよ。そんな中でも支援室の利用は結構あるのですが、内訳をみますと、桃花台地区に住んでいた人が新しい所帯を持たれて春日井市へ引っ越し、里帰りのように大城児童館を利用される方が非常に多いです。「子育て支援室の充実」では、子育てに困っていたり、少し話を聞いてもらいたいというママたちがたくさんいます。特にこのところ双子の方が増えてきていまして、非常に子育てで困って見えます。家族が手伝ってくれる部分もありますが、それ以上にお母さんの負担が大きく、鬱のような状態になってしまう方もいますので、早めに支援できるようにしています。令和元年度から始まった1歳児のアニバーサリー事業が、毎月担当者会議もあり、各館の情報や包括支援センターからの指示・指導が受けられるので、連携しながらの子育て支援体制が小牧中に広がっているという風に思っています。先日も「双子の方でママが困っているのでは」という話を館長会で話したら、すぐに包括の先生方が来てくれて、母へのサポートについてアドバイスを頂き、かなりバックアップをいただだけました。包括の事業である一時預かりもそういった方にとっては利用しやすい制度で、私たちもどう繋いでいくかというのを大切にしながらやっています。職員も多世代でいますので、いろんな子育ての知恵を伝えながら、「こうしたほうがいい。」というようなことは言わないように注意して、お母さんに選んでもらえるようにしています。

中高生がたくさん来てくれる中で、できるだけみんなに自由に過ごしてほしいと思っているので、騒いでいる子にはしっかりと注意するようにしています。子ども扱いをせずに敬語で話をすると、きちんとわかってもらえます。

行事はいくつかありますが、資料でいうと「わらべ縁日」、「バンブーミュージック」、「クリスマスコンサート」、「おもちつき」などは中学生に手伝ってもらったり、場合によっては小学生サポーターの子に入ってもらったりしています。

コロナウイルスの影響でかなりイベントは制限しており、ほとんどやれていません。日々の催しもできるだけ密にならないようにしています。「ちびっこ広場」も看板にはあげずに、来ていただいた人に「ミニちびっこ」として体験してもらう程度にしています。かなり辛抱して過ごしていますが、安心安全の中でいかに地域に密着して運営していくかというところを今年度も大事にしてやっていきたいと思っています。

委員長

それでは、委員の皆さんにご質問やご意見をいただきたいと思っています。

穂積委員

どちらの児童館も、一生懸命されているんだな、というのが実感です。子育て支援もすごく大変だと思います。これからも益々よろしく願います。

来治委員

先日「児童館はやってますか」という問い合わせを受けましたが、こういった委員を何年もやらせていただいているのに事情を全然知らず、ネットで調べて折り返し電話したということがありました。

館長さんたちのお話を聞いていて、子どもだけでなく親御さんもケアするような形で対応されているんだな、と聞いていて感心しました。これからもよろしく願いいたします。

長谷川委員

私は月に1回北里児童館へ補導員として顔を出させていただいて、色々お話を伺うのですが、児童館の中も明るくて、色々な工夫がされているとよくわかります。うちは子どもが大きくなったので、残念ながら児童館を利用することがないのですが、今度は孫と一緒にいけるような楽しい児童館作りをしていただけたらと思います。

中川委員

すごくいいなと思うことがたくさんあったのですが、一つは、子育て支援としてお母さんたちの息抜きの間でもありつつ、親子で一緒に楽しめる活動をしているところがすごくいいなと思いました。小学校の不登校や登校しぶりを紐解いていくと、母子の愛着関係が上手く育っていないということがほとんどです。4年生の子が赤ちゃん返りをしてお母さんと離れられないということがありましたが、朝お母さんと一緒に来て、保健室でお母さんと10～15分ほど過ごすということが続けていくと、落ち着いていったという例を見てきています。お母さんの話を聞くと、「抱きしめてあげたいと頭では思うけれど、家ではできない」という悩みを言われるので、そういう方が児童館で過ごして、親子で一緒に楽しみ、活動し、そういうところから、小学校の不登校は減っていくのではないかと聞かせていただいて思いました。

学校では、コロナの関係で授業はほとんど前向きで座り、給食も一言も喋らないというルールで食べています。子どもたちも我慢して、制限の中で健気に過ごしていますが、学校では、先生の指示で動くのではなくて、子どもたち同士でつながって、質問しあったり、話し合っ決めていくということを中心にしていますので、児童館もこれからもそういう活動を続けていただきたいなと思いました。そのことと関連して、こどもプランナーやサポーターとして、子どもたちが企画や当日のサポートをやっているのはいいなと思いました。今小学校の方も行事がほとんど潰れていますので、子どもたちに考えさせる場面が行事の面ではありません。行事ができるようになったら、今日お聞きしたことを学校でもやっていきたいなと思いました。

沖本委員

学校や児童館が休みの間、子どもたちはどうしているか、心配をしております。今後もどのような状況になるかわかりませんが、大変な中でも児童館の先生方には子どもたちの一人ひとりの様子を見ながらやっていただい

いるので、またよろしく願いいたします。

川田委員

行事など色々企画していたと思うのですが、コロナの関係で思うように進まなくて、館長さん始め、それに携わる方々は歯がゆい思いをされていると思います。今年度どこかで親、子、地域が交わるような企画が打ち出せるようなときが来たら、全力を出して頂いて、児童館が活気づけば、地域の皆様もお喜びになると思いますので、お言葉をかけることしか私はできないのですが、よろしく願いいたします。

山下委員

私はふらっとみなみの方へ顔を出させてもらうのですが、お父さんが小さい子を連れて来館されている姿をよく見ますので、先生たちが一生懸命やってくださることによって、来やすい雰囲気があるのだなと思いました。私は小牧で子育てしていないこともあり、子育て支援室のようにお母さんが相談できたり、子どもと一緒に来てゆっくりできたりする場所がなかったので、今小牧に住んでいるお母さんたちはいいなと思います。皆さん仕事をされていてお母さん自身友達がいなかったり、地域に知り合いがなかったりすることが多いと思うので、児童館や支援室の先生とお話したり、よそのお母さんとお話したりすることで、力になってもらっていると思います。これからもよろしく願いいたします。

中野委員

味岡児童館開設の次の年から私は児童館職員として入り、手作りの紙芝居やおもちゃを作っていたことを思い出しました。活動を見ておまして、基本は変わってないなと思いました。子育てのお手伝い、子どもたちが自分たちで工夫して遊ぶ、そういうことは昔からやってきたような気がします。大城児童館ができる時もメンバーとして参加させていただいておりましたし、児童センターにもおりました。運営委員会の資料作りをやって懐かしく思ったり、あの時は大変だったなという思いがよみがえってきました。児童館の職員というのは、子どもを見ていないとできないことだと思います。お母さんたちとの交流、地域というものを大事にしていかなければならない。子どもフェスタをやったときにも一丸となってやったのを思い出しました。児童館の職員の連携はとても大事ですので、こういう場は交流として、また、情報交換の場として、大事な場でないかという気がしています。心をなくしてはいけないと思います。子どもを育てる心というものはいつまでも続いていくと思いますので、これからもよろしく願いいたします。

永井委員長

委員の皆様ありがとうございました。例年この会議に参加させていただいて、子育てに対する様々な活動が随分充実してきたという印象です。委員の皆様からは、評価する声ばかりでした。

良いことをやるのは当然良いのですが、職員の負担や働き方ということ

丹羽係長

考えていかなければならないとも思います。コロナに対する対応などで、職員の方の負担がかなり増えていると思いますので、そういう点でも考えていく必要があるかと思えます。

また、オンラインで子育て相談をするという話がありました。コロナの影響で対面できないという事実があるので、今後増えてくるのでは、という気がしています。

委員の皆様から、他にご意見等ありますでしょうか。

それでは、次に報告に移ります。こまきこども未来館の進捗について、事務局からお願いします。

こまきこども未来館の整備工事については、7月3日に完了し、無事引き渡し済みです。

また、工事と並行しデジタルコンテンツの整備として、3階のデジタルラボのコンテンツ作成や、4階ニコニコひろばのプロジェクトマップの制作、こども未来館内のデジタルサイネージの制作について、名古屋造形大学、中部大学、名古屋芸術大学との学館連携により制作の委託契約を令和2年3月10日に締結しました。

当初は令和2年9月5日にこども未来館を供用開始するよう準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルスの影響で、デジタルコンテンツの制作が9月に間に合わなくなったことから、こども未来館の供用開始を3か月程度延期することとなりました。

供用開始までの予定につきましては、現在、大方の備品の発注業務を終え、今後順次備品が納品されていきます。

また、こども未来館で開催する講座の内容については、講座等運營業務委託を受託した、NPO法人10人村で講座内容を検討していただいておりますが、よりよい講座となるよう様々な意見をいただくため、10月上旬にワークショップを開催し、その後、新たに設置する「こまきこども未来館講座運営会議」でも専門的な立場から意見をいただき、講座の内容に反映してまいります。

11月23日には、試験運用を予定しており、市内小学生、保育園児を招待し、実際に体験していただき、遊具の運用や入館方法などの問題点を洗い出して、供用開始に万全を期したいと思っています。

供用開始にあたっては、新型コロナウイルス対策としまして定員を設けるほか、当面の間は開館時間を10時から17時30分として、1日2～3回の入替制とし、合間の時間に館内清掃を実施することを考えています。なお、定員につきましては11月23日の試験運用の様子をみてから最終的に決定いたします。

こども未来館は、大きく、2階の「交流ひろば」、3階の「体験ひろば」「遊

	<p>びひろば」、4階の「ニコニコひろば」「児遊ひろば」の5つエリアに分けられますが、こども未来館の供用開始にあわせて、児童センターは「児遊ひろば」として位置づけられ、これまでどおり市職の児童厚生員の先生方が子どもたちと関わる場として活用してまいります。</p> <p>この会議終了後、こども未来館の見学を予定していますので、お時間のある委員の方々にはぜひご参加ください。</p>
<p>委員長</p>	<p>今ご説明していただいたことについて、ご質問・ご意見等ありますでしょうか。</p> <p>ないようですので、5 その他に進みます。事務局からお願いします。</p>
<p>センター長</p>	<p>今年度11月14日に予定をしておりました「こまキッズフェスタ2020」ですが、大変苦渋の決断ではありましたが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止を決定しました。</p> <p>続きまして、次回の児童館運営委員会ですが、令和3年2月頃に開催し、現状報告や、来年度の目標設定などをご提案させていただく予定ですので、皆様、よろしくお願ひいたします。</p> <p>最後に、参考資料として、令和2年度小牧市児童館のしおりを配布させて頂いております。各児童館の基本的な情報から、各館で行われているクラブ活動や子育て支援室の活動、年間の行事計画などを載せておりますので、ぜひご覧ください。内容についてご意見などありましたら、事務局までお願ひいたします。</p>
<p>永井委員長 川尻室長</p>	<p>では、以上で全て終わります。</p> <p>ありがとうございました。それでは、この後こども未来館へご案内いたしますので、お時間のある方はお願いします。</p>